

第1回臨時会(1月21日)

■成人式

1月9日、中央公民館において、町内・町外合せて56人(男32人・女24人)の新成人と多くの来賓の方々をお迎えして挙行いたしました。

式典では、新成人から希望に燃える力強い「成人の誓い」が述べられ、厳粛の中にも和やかに式典を終えることができました。

■死亡交通事故ゼロ日運動

平成22年3月21日を起算日として取り組んで参りました死亡交通事故ゼロ日運動は、1月14日に目標の300日を達成しました。

次の目標を500日(達成日平成23年8月2日)として、全町民とともにこの運動を推進する決意ですので、議員各位を始め全町民の皆様のご協力をお願い申し上げます。

◎その他報告された事項

- 寄附 ■第15回カレンダー展示即売会 ■全道リコーダーコンテストの結果

第2回臨時会(2月24日)

■音楽祭への参加

1月30日船橋市船橋アリーナで開催されました「ふなばし第18回千人の音楽祭」に、活波小中学校リコーダーアン

サンブルが、船橋ポトライオンズクラブ様のご招待により参加させていただきました。

参加しました15人(小学生8人、中学生7人)は、大観衆の前で日頃の練習成果を発揮し、堂々とした演奏で大きな拍手を受けたところです。

■平成22年国勢調査

5年ごとに行われる国勢調査は、昨年10月1日現在における、人口を始めとする諸調査を73調査区に分け、54人の調査員によって行われました。このほど発表された人口と世帯の速報値によりますと、津別町の人口は5千646人、世帯数は2千364世帯という結果となり、前回調査の平成17年に比べ、人口で576人、世帯数で144世帯の減少となったところであります。

◎その他報告された事項

- ソフトテニス大会 ■第33回冬季町民スポーツ大会

第3回定例会(3月9日)

■東日本大震災

3月11日午後2時46分頃、東北地方の太平洋沖で発生しました地震につきましては、日本における観測史上最大のマグニチュード9.0を記録し、被災状況が明らかになるにつれ、その甚大な被害にただただ驚嘆し、未曾有の犠牲者に

耐え難い悲しみを覚えずにいられません。

町有施設については、異常がない旨の報告を受けておりますが、農業、林業、商業関係ともに、流通の停滞による出荷、入荷への影響が報告されております。

■支援物資、義援金

北海道より救援物資の輸送について、自衛隊の協力を得ることができるとの連絡が来たことから、指定されている自衛隊美幌駐屯地に運ぶ支援物資の調達を行ったところであります。

支援物資は、防災用に備蓄している毛布・懐中電灯、衛生用品として備蓄のマスク・

消毒液、さらに町内業者からの購入物資としてアメ、おむつ、ブルーシート等を指定された日に、美幌駐屯地へ搬入する予定であります。そのほか、仮設住宅の設置用地の提供や被災者の受け入れについても、町営住宅等の提供の用意がある旨、関係機関に伝えたいところであります。

なお、義援金につきましては、全道町村会の対応や近隣町村の動向を確認しながら、適時に対応していく考えであります。

◎その他報告された事項

- バトントワリング選手権大会 ■建設工事等の発注状況

3月定例会予算補正

会計別	今回補正額	予算総額
一般会計	931万円	53億3,422万1千円
国保会計	△2,037万8千円	9億5,544万7千円
老人保健会計	△91万円	9万1千円
後期高齢者会計	108万2千円	7,720万5千円
介護保険会計	△4万9千円	4億4,623万円
介護サービス会計	2万円	2億7,286万5千円
下水道事業会計	△832万6千円	3億7,483万5千円
簡易水道会計	△17万4千円	4,059万4千円

補正された主な内容

〈一般会計〉

- 財政調整基金積立金 8,158万円
- 道路除排雪経費 494万円
- まちなか団地建設整備事業 △2,250万円

(△は予算に対する減額を示します。)

委員会構成が変わりました

議会運営委員会

- 委員長 茂呂竹 裕 子
- 副委員長 村田 政 義
- 委員 乃村 吉 春
- 〃 谷川 忠 雄

総務文教常任委員会

- 委員長 白馬 康 進
- 副委員長 村田 政 義
- 委員 茂呂竹 裕 子
- 〃 山内 彬
- 〃 篠原 眞 稚子

産業福祉常任委員会

- 委員長 藤原 英 男
- 副委員長 谷川 忠 雄
- 委員 乃村 吉 英
- 〃 鳥本 中 樹一
- 〃 鹿 順

総務文教常任委員会

第1回（3月2日）

- ・委員長の互選について
- ・副委員長の互選について

委員会活動

常任委員会 特別委員会

各常任委員会・特別委員会は議会の閉会中も委員会を開催し、所管事務について協議しています。

産業福祉常任委員会

第1回（3月3日）

- ・委員長の互選について
- ・副委員長の互選について

- ・職員の特殊勤務手当に関する条例の一部改正について
- ・情報通信基盤施設条例の制定について
- ・オホーツク町村公平委員会委員の選任について
- ・平成23年度各会計予算原案の概要について
- ・森の健康館及び山村体験宿泊施設の設置及び管理に関する条例の一部改正について
- ・森の健康館及び山村体験宿泊施設町民入浴優待回数券の交付について
- ・人づくり・まちづくり活動支援事業について
- ・公の施設に係る指定管理者の指定について
- ・特別支援教育就学奨励補助規則の一部改正について
- ・公園条例の一部改正について

議会運営委員会

第1回（1月18日）

- ・第1回津別町議会臨時会の運営について

第2回（2月18日）

- ・町営住宅まちなか団地の建設について
- ・公の施設に係る指定管理者の指定について
- ・下水道設置条例の一部改正について
- ・小規模土地改良（暗渠排水）事業補助金交付規則の制定について
- ・国民健康保険条例の一部改正について
- ・バス無料乗車券交付要綱の一部改正について
- ・重度身体障害者無料タクシー券交付要綱の一部改正について
- ・在宅高齢者火災警報器給付事業実施要綱の一部改正について
- ・平成23年度各会計予算原案の概要について
- ・町営住宅の設置及び管理に関する条例の一部改正について

議会広報特別委員会

第10回（4月14日）

- ・議会報136号の編集について

- ・第2回津別町議会臨時会の運営について
- ・第3回（2月21日）
- ・第2回津別町議会臨時会の運営について
- ・第4回（3月4日）
- ・委員長の互選について
- ・副委員長の互選について
- ・第3回津別町議会定例会の運営について
- ・各種委員の推薦について
- ・意見書の取り扱いについて
- ・第5回（3月14日）
- ・第3回津別町議会定例会の運営について
- ・追加議案の取り扱いについて
- ・各種委員の推薦について
- ・意見書の取り扱いについて
- ・第6回（3月17日）
- ・第3回津別町議会定例会の運営について
- ・追加議案の取り扱いについて

議会日誌

1月

- 18日 議会運営委員会
- 21日 第1回津別町議会臨時会

2月

- 1日 オホーツク管内町村議会議長会定期総会(清里町)
- 18日 議会運営委員会
- 21日 議会運営委員会
- 24日 第2回津別町議会臨時会

3月

- 2日 総務文教常任委員会
- 3日 産業福祉常任委員会
- 4日 議会運営委員会
- 9~18日 第3回津別町議会定例会
- 14日 議会運営委員会
- 17日 議会運営委員会
- 18日 第2回全員協議会

4月

- 14日 議会広報特別委員会

「子ども・子育て新システム」に関する意見書

◆提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、総務大臣、厚生労働大臣、文部科学大臣、(少子化対策)内閣府特命担当大臣

幸いにも災害を免れた私達は、個々人の善意を集め、被災地が復興し、被災者が一日も早く普通の生活に戻れるよう、心一つにして応援していきたい。

(茂呂竹)

その上、福島原発の放射能漏れは地震の影響を受けなかつた人々をもその地から追い払い、先々まで不安を与えている。地震は防ぎようがないが、原発は自然エネルギーへの転換でなくす事ができる。国は大地震の被災者救済に全力を尽くすと共に、エネルギー政策の見直しも是非行ってほしい。

意見書

関係行政庁へ
提出しました

地域医療存続のための医師確保に関する意見書

【要旨】

平成16年に始まった「新医師臨床研修制度」により、医師の地域偏在が進み、地方で勤務する医師の不足が深刻な状況になっており、医師不足からくる過酷な勤務状況であるとともに出張医勤務に多額な費用を要して病院経営が非常に困難な状況にあることから、早急な解消対策が求められている。

住民の安全と安心を確保するため、救急医療をはじめとする地域医療体制の整備に当り、何よりもまず安定した医師の確保が必要である。

以上のことから、地方の医師不足と医師の偏在を解消し、安心できる地域医療体制が存続できるよう下記の施策を国において緊急に講ぜられることを求める。

記

医師不足の解消や地域ごと・診療科ごとの医師偏在の是正を図るために、医師臨床研修において医師の技術修得はもとより「医は仁術」という医療の基本を修得することを期し、医師不足地域での数年間の勤務義務など医師派遣体制を構築する法的措置を講じること。

◆提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、厚生労働大臣、総務大臣

平成23年度畜産物価格決定等に関する意見書

◆提出先

衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、財務大臣、農林水産大臣

はぐるま -歯車-

東日本を襲った未曾有の大震災、大津波は、悪魔のようにならぬ命、家財、そこで行われていた平穏な暮らし、ささやかな幸せを一瞬にして打ち砕いた。美しいリアス式海岸の町を瓦礫のごみ捨て場に変えた。肉親を捜して歩く被災者の姿は涙を誘う。寒さの中、満足の食料もなく不自由な避難生活を余儀なくされている多くの被災者を思うと、じっとしてられない。